

## 美杉地域医療の在り方に関するまとめ

平成 27 年 9 月 29 日

美杉地域医療在り方検討会

## 1 現状の課題

美杉地域の高齢化率は55.8%（平成27年3月31日現在）と市内で最も高く、地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らすために、医療の確保に向けた取り組みは重要である。

美杉地域には民間診療所が2施設、国民健康保険診療所が1施設、また歯科診療所が2施設あり、地域のかかりつけ医としての役割を果たしていただいているものの、平成26年6月末には伊勢地診療所が、また平成27年6月末には多気地区の小田内科が閉院するなど、医師の高齢化等の理由による診療所の閉院が続いている。

地域の交通手段としては、JR名松線（現在は代替バスによる運行）、三重交通バス及び津市コミュニティバスを始めとする一定の公共交通機関が整備されているものの、移動手段としては自家用車の利用が中心となっている。

現在は自家用車を運転し医療機関へ通院出来ているものの、高齢になり運転できなくなると、医療機関への通院が困難となる事も考えられる。

このような状況の中で、将来を見据えた持続的な地域医療の体制づくりが大きな課題となっている。

## 2 美杉地域医療の在り方について

### (1) 新たな医療拠点の整備

美杉地域に新たな医療拠点となる診療施設を開設し、美杉地域の将来を見据えた持続可能な医療が提供できる体制を目指す。

#### ア 開設場所

美杉地域全体を担うことができるよう美杉地域の中心的位置で、JR名松線、三重交通バス及び津市コミュニティバスも含めた美杉地域の公共交通の結節点など、交通機関を利用して通院しやすい場所が、新たな医療拠点となる診療施設の開設場所として望ましい。

#### イ 美杉地域内の各地区への医療の確保

新たな医療拠点以外で医療の確保が必要な地区に対しては、県立一志病院又は新たな医療拠点となる診療施設からの医師による診療で対応し、また、在宅での医療が必要な住民に対しては、訪問診療により対応できることが望ましい。

#### ウ 教員の確保を通じた医師の確保

国立大学法人三重大学に地域医療のための講座を設置することによって、県立一志病院及び国立大学法人三重大学医学部に教員を配置し、これを通じて新たな医療拠点となる診療施設に医師が確保できる体制を整備する。確保する医師については、総合診療医が望ましい。

#### エ 医師の宿舎

医師が地域に住み込んでいただけるよう、医師の宿舎を新たな医療拠

点となる診療施設の近くに確保できるように努める。

オ 三重大学及び県立一志病院との連携

当拠点の実施運営に当たって、国立大学法人三重大学家庭医療学、同大学の地域医療のための講座及び県立一志病院との連携が前提となる。

カ 研修医及び医学生の支援

国立大学法人三重大学医学部及び県立一志病院と連携の上、研修医・専攻医や医学生を受け入れるなど、施設の受入状況に応じて、新たな医療拠点となる診療施設を教育・研究の場として活用する。研修医や医学生の宿舎についても、新たな医療拠点となる診療施設の近くに確保できるように努める。

キ 時期

平成28年4月1日から新たな医療体制が確保できるように努める。

(2) 研究

美杉地域をはじめ津市の地域医療、保健及び福祉の向上に資する情報を収集するために、美杉地域における調査研究を津市は支援する。国立大学法人三重大学に設置された地域医療のための講座が、この調査研究の中心となる。

(3) 地域の医療機関の更なる利用

県立一志病院及び美杉地域内の其々の診療所を地域住民で守っていくために、かかりつけ医として積極的に利用していく。

(4) 美杉地域医療への地域住民の関わり

医療機関への通院について、地域住民同士で送迎し合う有償ボランティアのような取り組みについても可能性を探索していく。

(5) 将来に向けた課題

地域包括ケアシステムの推進に向けた訪問看護の充実や、子育て支援のための病児・病後児保育に係る取り組みについても、検討していく。

(6) 地域住民への報告

平成28年度中頃に美杉地域医療の充実に向けた進捗状況について、地域住民への報告の場を設ける。